

平成26年 9 月 26 日

幕別町議会議長 古川 稔 様

総務文教常任委員長 前川 雅志

所管事務調査報告書

本委員会において、次のとおり所管事務調査を終了したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 教育委員会、総務部に関する事項

- (1) 調査期日 平成26年7月18日（1日間）
- (2) 出席委員 前川 雅志、田口 廣之、小川 純文、乾 邦廣、中橋 友子
(以上5人)
- (3) 欠席委員 芳滝 仁
- (4) 調査内容

① 教育委員会に関する事項（万城目正と昭和歌謡を継ぐ会 意見交換）

万城目正など幕別町にゆかりのある人物が残した歴史、文化及び功績を今後後世にどう引き継いでいくのか、そのあり方について万城目正と昭和歌謡を継ぐ会（会長 小助川 勝義氏 出席者 役員8人）と意見交換を行った。



② 総務部に関する事項（行政組織及び職員に関する事項について）

行政組織と職員数の現状及び今後行う組織機構の見直しについて総務部総務課から説明があり、臨時職員や再任用の状況及び札内支所の組織機構のあり方について調査を行った。

2 教育委員会、企画室に関する事項

(1) 調査期日 平成26年8月6日（1日間）

(2) 出席委員 前川 雅志、田口 廣之、小川 純文、乾 邦廣、中橋 友子
（以上5人）

(3) 欠席委員 芳滝 仁

(4) 調査内容

① 教育委員会に関する事項（学校教育について）

昨年10月に町内小学校で起きた児童に対する体罰の経緯、経過、処分について教育委員会から報告があり、今後の指導のあり方や体罰根絶の対応策について調査を行った。

② 企画室に関する事項（消防広域化に係る検討状況について）

一部事務組合格約及び災害出動計画の内容について企画室から説明があり、これら広域化に係る進捗状況、直近署所からの出動見直し区域や消防団の体制等について調査を行った。

3 道内先進事例行政視察について

(1) 視察期日 平成26年8月18日、19日（2日間）

(2) 出席委員 前川 雅志、田口 廣之、小川 純文、乾 邦廣、芳滝 仁、
中橋 友子（以上6人）

(3) 視察項目及び視察先等

【廃校舎の利活用と地域振興及び放課後活動について】

① 視察日及び視察先

平成26年8月18日 榊山口油屋福太郎（旧小清水町北陽小学校）

視察先対応者 福太郎株式会社 小清水北陽工場 仲原 勇樹氏

② 視察目的

廃校による小学校校舎を有効活用し、特産のばれいしょでん粉等の地域食材を必要とする企業が進出した。地域経済に与える影響や地域の子どもたちに工場を開放する等の取り組みを調査する。

③ 現地概要

平成23年度末をもって統合を理由に廃校した旧北陽小学校校舎を改修し、平成25年度に新工場が開業した。地域産業の活性化、雇用促進、地産池消の販売促進を目指す。最後の在校生は16人。工場に小学校の思い出を残し児童に開放している。

④ 視察内容

㈱山口油屋福太郎が廃校舎を利活用し新工場を建設するに至った経過、生産されている「ほがじゃ」の生産ライン、雇用状況、児童がどのように利用しているか等、説明を受ける。

⑤ 効果と課題

平成25年度の開業以来、従業員34人の内8割を地元から採用している。近隣の児童は自転車に乗り、毎日工場に訪れ、コミュニケーションの場として利用している。

⑥ 所見

幕別町には未利用の校舎はないが、民間への売却は参考になった。工場を開放する放課後活動のあり方は、他に例が少ない。幕別町内の企業にも同様の取り組みが生まれることを期待する。



旧校舎の内部のみ改修され、製造ラインが整備されている。



工場内部のホールや駐車場で自由に地域の子どもたちが遊んでいる。(平成9年度に新築された校舎の外壁は当時のままで手は加えられていない。)

【私立高校と道立高校の再編について】

① 視察日及び視察先

平成26年8月18日 北海道網走桂陽高等学校

視察先対応者 北海道網走桂陽高等学校 校長 清原 薫氏

〃 教頭 泉田 正弘氏

② 視察目的

私立高校と道立高校の再編について

③ 現地概要

平成20年3月、私立の網走高等学校と北海道網走向陽高等学校の両校が閉校し、同年4月に両校が再編成統合され、北海道網走桂陽高等学校が開校した。

④ 視察内容

オホーツク管内における中学校卒業生の推移及び進路、再編に至った経過と課題、北海道網走桂陽高等学校の概要、生徒確保の取り組みと受入体制の整備等の説明を受けた。

⑤ 効果と課題

同学区の網走南ヶ丘高校は「進学重視型」の普通科単位制の導入。網走桂陽高校は、普通科と商業科・事務情報学科を併設し、地域に有為な人材を送り出す地域に根ざした高校としてそれぞれが役割を果たしている。このことにより、再編から7年目を迎えたが、入学者を確保している。特色ある学校づくりに努力が必要であり、そのためには、教職員の授業力・生徒指導力の向上が必要である。

⑥ 所見

幕別町には、私立高校と道立高校、高等養護学校の分校があり、それぞれが特色を持って努力をしている。しかし、道立幕別高校の募集は、毎年厳しさを増している。私立高校と道立高校の再編はこの厳しさを乗り越える一つの方法かもしれないが、再編と同時に特色ある学校づくりに努めなければ信頼される学校として使命を果たすことは出来ないであろう。



説明を受けた会場は校史資料室で、再編した網走高校と向陽高校の校旗や資料等が掲示されている。

【スポーツ合宿誘致による交流人口拡大の取り組みと経済波及効果等について】

① 視察日及び視察先

平成 26 年 8 月 19 日 網走スポーツトレーニングフィールド

視察先対応者 網走市議会 議長 小田部 善治氏

〃 事務局長 次長 吉田 正史氏

網走市教育委員会 社会教育部スポーツ課 大西 広幸氏

② 視察目的

スポーツ合宿誘致による交流人口拡大の取り組みと経済波及効果等について

③ 現地概要

平成 10 年度に開設した網走湖を見下ろす自然林の中にあるスポーツ施設である。東京ドーム約 9 個分（41.4 ha）の広大な敷地内には、日本一と定評があり、Jリーグやラグビートップリーグチームが合宿を行う天然芝フィールドが 7 面、全天候型テニスコート 16 面、野球場、ソフトボール場、アーチェリー場の他、投てき競技専用の練習場を備えている。

④ 視察内容

施設内のセンターハウスで合宿誘致の経過や取り組み内容、また、これまでの利用実績等について担当者から説明を受ける。その後、ラグビーグラウンド、オホーツクドームの現地を見学した。網走市からの合宿誘致に関わる補助は950万円、施設の管理運営は平成20年度から指定管理2,957万円、芝生管理4,082万円、使用料収入1,113万円。平成25年度延利用者数81,766人となっている。

⑤ 効果と課題

経済効果は平成25年度で、約5億5,000万円（宿泊約1億5,000万円、お土産約1億円、その他交通費等）と試算している。同じ団体が毎年合宿を行い、競技場・ホテル等の関係からこれ以上の誘致は出来ない。しかし、合宿シーズンが限定されているので、オフシーズンの利用が期待される。ホテルは洗濯機の配置、送迎、3食提供等努力が必要である。

⑥ 所見

2020年の東京オリンピックに向け、多くの市町村が合宿誘致に動き出している。網走スポーツトレーニングフィールドの設備、受け入れ体制、これまでの実績を見たとき、トップアスリートの受け入れには投資と時間が必要であると感じた。現在の幕別町の体育施設、宿泊施設等でトップアスリートを受け入れることが出来るか研究が必要である。また、受け入れの是非についても議論が必要である。



センターハウスで、網走市議会小田部議長からの挨拶の後、担当者から説明を受ける。



施設内ラグビーグラウンドでの東海大学ラグビー部の合宿練習状況を視察した。

【「びほーる」の概要と芸術文化の振興について】

① 視察日及び視察先

平成 26 年 8 月 19 日 美幌町民会館「びほーる」

視察先対応者 美幌町議会 議長 古舘 繁夫氏

〃 事務局長 高崎 利明氏

美幌町教育委員会 教育部長 高木 恵一氏

〃 社会教育主幹 荒井 紀光子氏

② 視察目的

「びほーる」の概要と芸術文化の振興について

③ 現地概要

「交流と共感 創造と参加」をキーワードに、世代間の交流や新しい文化を創造し、町民の芸術・文化活動の場として建設していた文化ホールが完成し、平成 24 年 8 月 19 日にオープンした。愛称は「びほーる」と名付けられた。

④ 視察内容

基本方針、施設の整備方針、施設の主な概要、基本設計、整備事業費及び運営等について担当者から説明を受けた後、文化ホール「びほーる」を見学した。

整備事業費 11 億 8,466 万円

財源内訳 道支出金 2 億 3,000 万円 基金繰入 6 億 5,489 万円

一般財源 2 億 9,977 万円（※起債なし）

鑑賞事業費 毎年 500 万円

⑤ 効果と課題

オープンして 2 年目を迎える。平成 24 年度の平均稼働率 71.8%、平成 25 年度の平均稼働率は 76.6%と高い稼働率を維持している。席数は 499 席。平成 25 年度の入場者数 24,243 人。多くの町民が演劇、コンサート等に触れる機会となっている。併設する町民会館は昭和 44 年建設で老朽化が激しい。平成 26 年度から過疎債が適用されるようになり建て替えの議論となるか。

⑥ 所見

構想から約 20 年かけた「びほーる」は、借金をすることなく完成したことは、一番の驚きである。入場者数を美幌町の人口約 21,000 人で割り返すと町民 1.15 回利用した計算になる。幕別町百年記念ホール（大ホール）の平成 25 年度の実績は、39,730 人、幕別町の人口約 27,500 人で割り返すと 1.44 回である。しかし、幕別町百年記念ホール（大ホール）の稼働率は 50% 台と「びほーる」より低く、今後の努力が求められる。



「びほーる」大ホールを視察。（観客席は 499 席）

平成26年 9 月 26 日

幕別町議会議長 古川 稔 様

民生常任委員長 谷口和弥

所管事務調査報告書

本委員会において、次のとおり所管事務調査を終了したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記

- 1 民生部に関する事項（保健予防及び保健衛生（「第2期まくべつ健康21」について）
 - (1) 調査期日 平成26年7月15日（1日間）
 - (2) 出席委員 谷口 和弥、東口 隆弘、寺林 俊幸、小島 智恵、増田 武夫、千葉 幹雄（以上6人）
 - (3) 欠席委員 斉藤 喜志雄
 - (4) 調査内容 昨年国から示された「健康日本21（第2次）」の趣旨に沿い改定された「第2期まくべつ健康21」の計画内容及び推進体制等について民生部保健課から説明を受け、本町における健康及び生活習慣等の現状や年齢期ごとの健康づくりのあり方や計画の周知方法等について調査を行った。

- 2 民生部に関する事項（戸籍及び住民基本台帳、国民年金について）
 - (1) 調査期日 平成26年8月26日（1日間）
 - (2) 出席委員 谷口 和弥、東口 隆弘、小島 智恵、増田 武夫、千葉 幹雄（以上5人）
 - (3) 欠席委員 寺林 俊幸、斉藤 喜志雄
 - (4) 調査内容 戸籍、住民基本台帳及び国民年金について民生部町民課から説明を受け、住民基本台帳においては、平成25年に関

係法令が公布された「社会保障・税番号制度」（マイナンバー制度）の運用方法や情報管理、国民年金の保険料や給付等について調査を行った。

平成26年 9 月 26 日

幕別町議会議長 古川 稔 様

産業建設常任委員長 藤原 孟

所管事務調査報告書

本委員会において、次のとおり所管事務調査を終了したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 道内先進事例行政視察について

- (1) 視察期日 平成26年 7 月 16 日、17 日（2 日間）
- (2) 出席委員 藤原 孟、藤谷謹至、岡本眞利子、牧野茂敏、野原恵子
(以上 5 人)
- (3) 欠席委員 成田年雄
- (4) 視察項目及び視察先等

【⑦「一村一エネ」木質バイオマス事業について ①占冠道の駅の沿革と今後について】

① 視察日及び視察先

平成26年 7 月 16 日(水) 占冠村役場（現地：湯の沢温泉）

視察先対応者 占冠村長・中村 博氏

占冠村議会議長・相川 繁治氏

占冠村議会事務局長・尾関 昌敏氏

占冠村企画商工課長・松永 英敬氏 ほか

② 目的

再生可能エネルギーの有効活用など環境保全及び循環型社会の実現に向けたまちづくりや忠類インターチェンジ開通を目前にした中での道の駅のあり方などを学ぶ。

③ 視察内容

- ㊦ 占冠村では面積の94%が森林という地の利を生かし平成25年度占冠村一村一エネ補助事業を展開した。

占冠村は、豊富な森林資源を背景に、地域資源の利活用を通し、既存の重油から木質燃料へのエネルギー転換、それによる二酸化炭素と燃料代の削減、派生する新規雇用の創出と資金循環による地域内経済効果を目的として、今後積極的に木質バイオマスの活用を行っていく。



特に視察において注目すべき点は、湯の沢温泉に導入したバイオマスボイラーは薪ボイラー式であり、ペレットやチップを活用することなく燃料貯蔵庫のコストも低い新エネルギーを導入した点である。

- ㊧ 占冠道の駅は、平成7年1月に村生活情報センター、ショッピングモールが完成、平成12年8月道内67番目の道の駅「自然体感じむかっぷ」として登録した。利用状況数の推移として道東自動車道占冠 - 夕張間の開通前、開通後(平成23年10月全線開通)の利用状況等の変化について入館者数推移表を開示してもらった。

[平成21年度] 占冠インターチェンジ開通 420,176人

[平成22年度] 無料化社会実験 902,528人

[平成23年度] 全線開通 693,079人

[平成25年度] 369,072人

と激減しているが、今後の取り組みについて質問をすると特効薬はないが小さい取り組みでも積み重ねていくことでトータルとして一定の効果を発揮する。また



富良野・美瑛広域観光への南玄関口として千歳空港を起点として旭川への観光バス、スキーバスの休息立ち寄り場として充実させていくとのことであった。

【木質バイオマス有効利用について】

① 視察日及び視察先

平成26年7月17日(木) 芦別市役所（現地：芦別温泉スターライトホテル）

視察先対応者 芦別市議会議長・池田 勝利氏

芦別市議会事務局長・畠山 優喜氏

芦別市総務部政策推進課長・長野 周史氏

芦別市総務部政策推進課政策推進係長・佐々木 保行氏

② 目的

再生可能エネルギーの有効活用など環境保全及び循環型社会の実現に向けたまちづくりについて学ぶ。

③ 視察内容

芦別市の木質バイオマス利用促進事業の状況を視察した。

事業概要は芦別木質バイオマス開発協同組合を核とする地域資源有効活用であり主にチップ製造を行い、スターライトホテル等(芦別振興公社)の木質チップボイラーに材料を供給している。

芦別市の製材業者、素材生産業者、建設業者、販売店で構成する協同組合が担うことでボイラー、チップ破砕、運搬トラック、チップの販売など「流出資金域内還元」を目指して木質バイオマスの利用促進を積極的に展開する姿を学んだ。



【歴史・文化の施設について】

① 視察日及び視察先

平成26年 7月17日(木) 富良野市博物館

視察先対応者 富良野市生涯学習センター所長・上堀 義文氏

② 目的

廃校舎を利用した歴史文化の施設について学ぶ。

③ 視察内容

本博物館は平成13年に廃校となった富良野農業高校の廃校舎を利用した生涯学習センター内にあり、富良野の自然、歴史、文化に関する資料が展示されている。1階には動物剥製や昆虫標本、地質コーナー、考古資料、開拓期の資料、農機具を中心に展示され、2階には林業や商業関連をはじめ、衣食住にまつわる生活資料が展示されている。

「戦後のあゆみ」のコーナーでは昭和30年代の復元民家や昭和の時代に流行した玩具、レコードなどが展示され、戦後復興期から高度経済成長期を経て現在に至るあゆみを楽しみながら学べるような工夫がされている。廃校舎を利用していることから、展示スペースにも適度な余裕があり、観覧しやすい施設と感じた。



2 建設部に関する事項

(1) 調査期日 平成26年 8月21日 (1日間)

(2) 出席委員 藤原 孟、成田年雄、藤谷謹至、岡本眞利子、牧野茂敏、野原恵子 (以上6人)

(3) 調査内容

① 緑の基本計画について

当初計画の策定から10年が経過し、本町における緑の現状と課題の把握、町民意識の変化を調査した中で平成24年に改定された「緑の基本計画」について建設部都市施設課より説明を受け、計画の進捗状況について調査を行った。

② コンクリート製品の開発等について

多自然型、環境配慮型のコンクリート製品の開発等を行っている共和コンクリート工業株式会社帯広支店を視察した。

